

Adult Only
R-18

『メダリ〇ト』本



1st spin

教室経営を
助けるための『かんたんなお仕事』

「……み、ミケちゃん!？」
連れてこられたリンク下の地下室。
薄暗いけど、だだっ広い空間の中に
見知った顔を見つけた折は、小さく叫んだ。

はぁ♡

は♡

はぁ♡

ブッ♡

ズッ♡

ズッ♡

見知った人物の
見たことのない様子に
絶句せざるをえなかったのだ。

「んあッ♡お、おお〜♡♡
ちんぽ♡ちんぽ、めっちやいい♡
奥ドチユドチユ突かれるのたまらんがやあ♡♡」

ほ♡

ほ♡

ひとときわ小柄な矮躯に
大人の男のイチモツが
深々突き刺さり、少女を太胆に揺する。
そのたびに、

「あがッ♡んごッ、おおおッッ……♡♡
なんね、めっちはげし…いい♡♡
はああ……ッ♡たまらん、コレえへえ♡♡」

あきれるくらいに濡れそぼった
幼腔に、赤黒い肉茎が突き刺さると、
細く引き締まった身体が淫らにくねった。

「なに……コレ……
ミケちゃん？ ミケちゃん……っ」
眼の前で練り広げられる淫蕩な光景に
祈はただただ、うろたえる。

「なに、心配はいらないよ」
祈の肩に、ぽんっと
分厚い男の手が置かれ、
少女はことさらに驚いたように
ビクリと反応した。

「三家田くんにはちよっと
手伝ってもらってるだけなんだ」
男は安心させるように、
落ち着いた声色で話す。

「んお♡おっ♡ふふがいッ♡
チンチン、奥はいりすぎだがね…ッッ♡♡」
友達に見られている意識など
さらさらなく、ミケは嬌声を張り上げる。

「……ミケちゃん」

大声であえぐ少女に気圧され、
祈はただただ、呆然と見守るしかない。
そんな中、祈の脇に立つ男は続けた。

「教室の運営には

とてもお金がかかるのは、わかるよね？」
男は、教師が生徒を諭すように
冷静な口調で説明した。

いわく、
教室の運営には大金が必要なこと。
生徒からの指導料だけでは賄うのは難しいこと。
そして、前途有望な子どもたちに
援助したいお金持ち達は大勢いること。

「そんなお金持ちさん達に
援助してもらおう見返りに
キミたち、生徒さんたちにも
協力してもらってるんだ……」

「そ、それが、コレ、なんですか……?」
信じられない様子の祈。だが、
一応筋が通っている説明に
何を示しつつも、納得せざるを得ない。なにしろ――

「あッ♡あッ♡あぁあぁっ♡
いぐいぐいぐ……ッ♡
も、イグから……ッ♡ちんぽッ♡ちんちん♡
びゅっびゅッ♡きて♡きてえッ♡♡」

目の前の異様な光景には
異様な説明が、妙に合っていると感じた。

「おツ♡んおっ♡ちんぽ、太く……ツ♡♡
んあツ♡じ、締めるっ♡♡ぎゅっで、しゅる♡
マン肉ぎゅっぎゅっ♡しゅるから、ああっ♡
にやか♡なからしツ、ひてええええっ♡♡」

はあ

は

はあ

ドキュ

ドキュ

ドキュ



「お……お……ツツ♡♡♡

ぎもち……ひい♡

にやからし♡あ、ありがと♡ごじやましゅ……♡♡」

はぁ♡

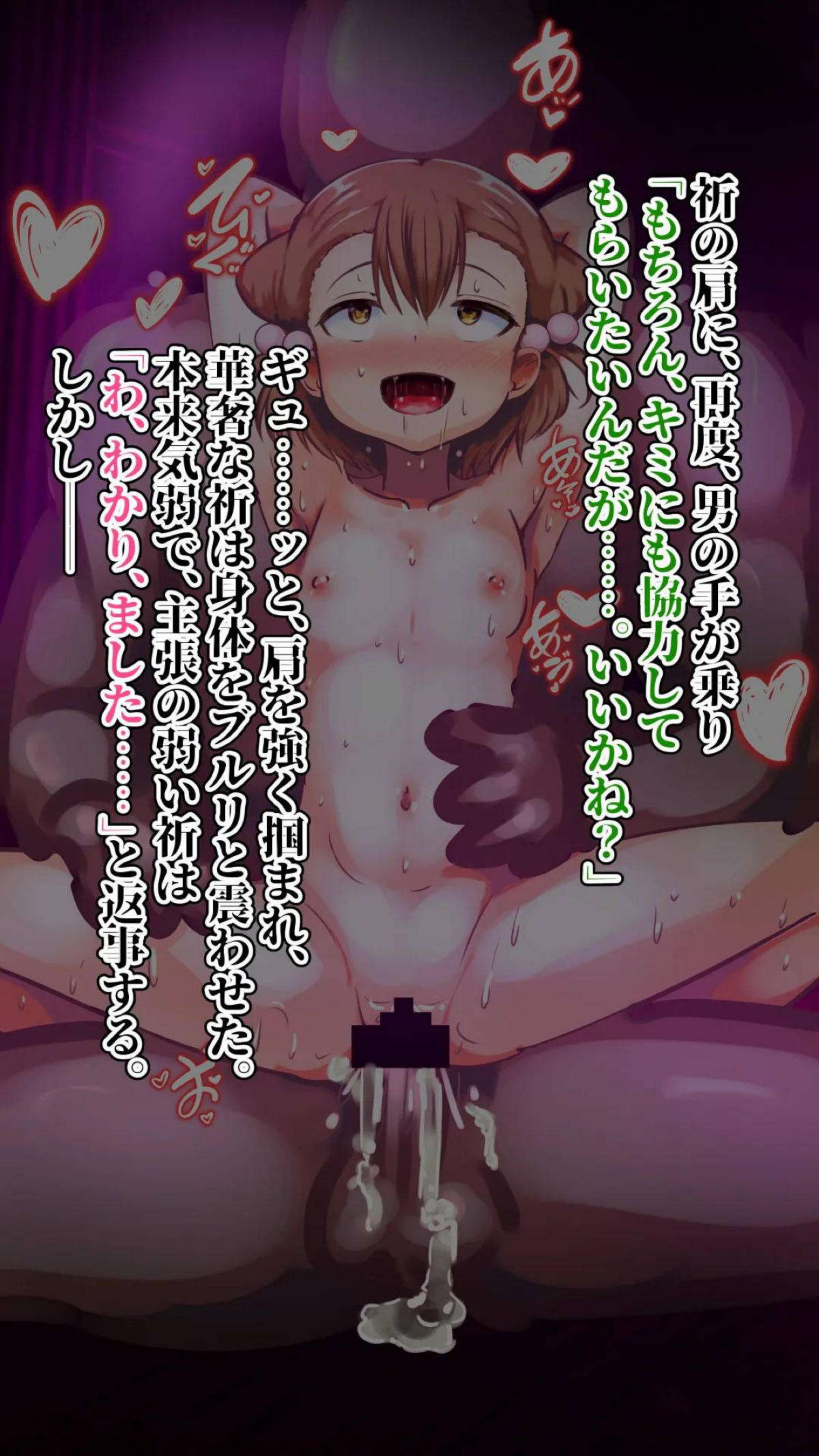
いつもは快活な友達が
生中出し射精に感謝を述べるのを
祈は、ただ鼻然と目守る。

——ポンっ

「ひッ……!!」

祈の肩に、再度、男の手が乗り
「もちろん、キミにも協力して
もらいたいんだが……。いいかね？」

ギュ……。ソと、肩を強く押まれ、
華奢な祈は身体をブルリと震わせた。
本来気弱で、主張の弱い祈は
「わ、わかり、ました……。>返事する。
しかし――」



男に抱まれた身体の奥が
キュン♡と、甘くあなないた直覚は
今の彼女には、わからなかつた。

「あの、あの……
は、はずかしいです……」
服を脱がされた初は弱々しく呟く。

「んほ♡かわいいなあ……♡
大丈夫、すぐによくなるからねっ」
自分の股間から、男性が返事をすると、
異様な光景にゾクゾクと鳥肌が立つ。



地下室のどこかにいたらしい
太極男が、今まさにと
自分のはずかしい部分に顔を寄せている。

はあ〜

はあ〜

はあ〜

はあ〜

「……♡……ふ……っ」
男の荒い息が、析の敏感な部分にかかり、
その熱さと生々しさで身震いする。

はあ〜



「あの、やっぱり」

「初物」○マンコ♡いったただっきままあす♡」

怖気づいた祈の降参宣言をかき消すようにに男はことさら大きな声で言った。

は♡

は♡「おッ♡お、おおおッ♡♡」

人に粘膜を舐めしやぶられる未知の感覚に、祈は思いがけず大声でよがる。

うろろ

×ら♡ば♡

(なにこれなにこれッ
ききもちわるい、
ネチャネチャされて……ッ)

ほあ
ほあ
カ
カ

つる
る

ちび
ぽ

見ず知らずの他人に粘膜を
まさぐられる感覚は、
普通に不快で、背筋が冷や汗をかく。

「大丈夫だよ、祈さん。」

この方は、キミのことを、きつと
気持ちよく開発してくれるからね」
すぐ近くにいる。ここままで案内してきた男が言う。

はあ

い

ちゅる

ちゅる

ずちゅっ♡じゅっ♡じゅるるるるる♡
じゅぽっ♡じゅぞっ♡じゅややや...♡

「はい...っ、んぐ...っ」

はふはふ息を乱しながら、祈は律儀に返事した。

「んっ、くう……っ、ふあ……ん」
未発達な膣口を、分厚い男の舌が撫であげ、
入口付近から、少しずつつ、内部にまでとれが及ぶ。

「っ、は、はあっ……っ、んっ……」

析の様子は、まさか『耐える』どころ

表現がふさあしいそれで

早くこの時間が終わってくれないか。

と身体で苦情を述べているようだ。だが、

×らば

×らば

×らば

「——ッ♡♡」

男の音が、祈の小さな糸突起
クリトリスをつつくと、様子が一変。
身体を鋭く痙攣させて、未知の感覚を表現した。

「いま、なに……が？」
「あ、やっぱりここが弱いのか」
身体の変化に戸惑う祈をよそに
股間に顔を埋める男性が、ふてふてしく呟く。



「オナニーとか普段しないの？」
「お、おな……？ って、なんですか？」
続けて質問してきた男に、祈はキョトンとする。

「はは、これはいい。なるほど、
本当に初物じゃないか」
祈の疑問に答えることなく、
男は上機嫌に笑った。
「あの……？」



不気味さを感じた祈をよそに——
じゅるっ、じゅ、ぢゅううううっ。

「んおっ♡お、おおお♡あ、あああッ♡♡」

はっ♡

はっ♡

ドクドク♡

ちゅ♡

ちゅ♡

男は唇でクリトリスをはむと
そのまま重点的に
祈の新たな弱点を攻め立てた。

「お♡あうッ♡あ、あ、あッ♡
ひうっ♡ん、んんんッ♡♡♡」
クリトリスを攻められ、
ビリビリと身体を震わせる祈に、声がかかる。

「お、よかったね。ちゃんと弱い所を

見つけてもらえて」

祈とブ男が交わるのを眺めていた
案内の男がニヤニヤと言う。

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

「これからどんどん開発して
自分から気持ちいいのを求めるくらい
この方に改造してもらおうといいよ、祈さん」
案内の男が勝手なことを喋る間も――

「んあッ♡あひっ♡ひ、ひッ♡
ひやっ♡あ、あっ♡あああッ♡」

クリトリスをなめられ、ねぶられ、
吸い付かれ、祈はただただ身をよじり、
今までにない感覚に耐える他ない。

千五

千五

千五

千五

千五

千五

千五

千五

「先生、いつもの道具も
ご用意しておりますので……」
案内の男の言葉に、ズ男は鷹揚に応じた。
その間も――

「ツツ♡は、はおっ♡お、おおっ♡
なにこれ、なにこれなにこれえツ♡♡」
祈は敏感な突起をコントローラーのように
つままれ、いじられ、喘がされるのだった……。





「ッ、ひびく……ッ♡

うううう……ッ、ヤダヤダヤダあ……ッ」

「ッ、ハ♡

「ッ、ハ♡

「ッ、ハ♡

「ッ、ハ♡

「ッ、ハ♡

「ッ、ハ♡

「ッ、ハ♡

「ッ、ハ♡

「ッ、ハ♡

散々クンニされ、クリトリスを
なじられ続けた祈。
今は無意識に暴れる手に枷をはめられ、
道具による調教を行われていた。

「あッ♡やだ、これやだッ♡
んいッ♡ひうつ♡う、うああッ♡」
ギユイイイイイイ……。
回転するゴム棒が、祈の膣、
その浅い部分をコリコリと擦り上げる。



さほど早い回転ではないが、
その振動と感覚が、祈の全身から
汗をしたたらせ、身体を震わせる。

「せっかくのはじめてだ。
ちゃんと気持ちよくなるよう、
私がキミをコーチしてあげるからね」
おもちゃの操縦をしながら、ブ男が
親切ぶりながら、にちゃりと喋る。

はぁ〜
はぁ〜
はぁ〜
ぐ
ぐ
ぐ
ちゅ
ちゅ

さほど早い回転ではないが、
その振動と感覚が、祈の全身から
汗をしたたらせ、身体を震わせる。

「せっかくのはじめてだ。
ちゃんと気持ちよくなるよう、
私がキミをコーチしてあげるからね」
おもちゃの操縦をしながら、ブ男が
親切ぶりながら、にちやりと喋る。

『見てご覧、祈ちゃん。』

キミのおまんこ、もうこんなに
よだれを垂らしているよ。欲しがりだねえ』

男の声に、しかし、祈は
いやいやと首を横にふるばかり。
だが、男の言う通り、
おもちやを漬くはさみこんだ
祈のはずかしい部分は、水浸しだ。



度重なる陰湿な刺激によって
純粹で無垢だった祈の女性器は、
今は透明な愛液をただ漏らし、
テラテラと光っている。

「はうっ♡んっ♡こんなもの♡
こんなの、ダメっ……ダメえっ♡」
漏れる声もどっか媚をうけるように
甘さが混じって出ていた。

「あッ♡な、なんかくるっ♡
くるっ♡へんな、かんじ…ツツ♡」
「人生初イキだね。そのままイッていいよ」
『イク』という言葉の意味がわからない祈だったが、
しかも、身体はちゃんと理解していた。



初めての絶頂にくたり、と脱力する祈。

だが

「んあッ♡あ、あッ……ッ♡♡」

女

44

はみ

おもちゃからの刺激は止まらず、

ふたたび、性快楽が祈の身体をビクつかせる。
「このまま今日はずっと、イかせ続けて、
快感を身体に覚え込ませるからね」

知

ち



愛の言葉

14

物

15

心

141



ズ男の言葉どおり、
析は新しい感覚を
身体に覚え込ませられるのだった……。

數日後

「きよ、今日は私の、私が……
おオナニーする所を
ご覧ください……」

どき

ほあ

ほあ

どき

どき

どき

ふたたび訪れた地下室で
祈は自ら服を脱ぎ、両足を開いて
男たちに恥ずかしい箇所を見せた。

恥ずかしさのあまり、
頭がカツカスる中、
数日前、自分をいじめ倒した
ブ男を発見し、さらに頭が沸騰する。

裸になって、恥部を滑られ、
さらにおもちやでいじめられ、
イキ狂わされた記憶が、
ありありと思い出されたのだ。
しかも、今は

うう……っ
もっと吐ずかしい。
自分で自分をなぐされる所を
数人の大人に見せつけるのだ。
もはや、正常な判断などできない。

は♡

は♡

「んっ……んっ♡ふう……」

熱に浮かされたようにぼろろとする
思考で、しかし、教わった通りに割れ目をまもる。



「んんッ……ふうう……ッッ♡」
くにくにと自分の恥ずかしい箇所に触れる。
自分でも驚くほど柔らかいそこは
じんわりと湿っていて、指の動きでビロビロと気持ちいい。

「ちゃんと『自主練』はしてきたね？」
「……はい」
自主練とはオナニーのことだ。
世にも恥ずかしい告白を強いられ、
祈はさらに真っ赤になる。



そんな祈にかまわず男は続ける。

「一日何時間、おまんこを弄ったね？」

「に二時間です……っ」

「今日まで何回イった？」

「……じゅ、じゅう、八かい、です」



「おお、と周囲の男がどよめく。

「自慰も知らなかった」〇が、

「こんなに淫らに……」

「さすがですなあ、先生」

男たちの称賛に、ブ男は誇らしげに「いやいや」とまんこを隠す。でもな。

「で、今日はどうして
オナニーをしているんだね？」
「そ、それは……だって」
命令されたから、と続けようとして
『正解』に気づく。

「今日はこれから……。
不安になる気持ちもいまかすように
祈は、自分から、弱点のクリトリスを
ぎゅっ、っねった。
「ッッッ~~~~♡♡
はう、うううっ♡」

『どうして、だっ たかな？ 祈ちゃん』
軽イキした祈を、ズ男はニヤニヤ見守る。
ビクビクと身体を小刻みに震わせながら、
祈は、ゴクリと生唾を飲み込み、言う。

「きよ、今日は……」

『先生』に、は、はじめて、その……

して、もらうから……ですっ」

祈の弱々しい宣言に

「そのとおり。よく言えたね」

『先生』と呼ばれたズ男はニヤリと答えた。

「ど、どうぞ……先生。
祈のはじめて……、も、
もらってやってください……」
教わった通りの口上を、太股開いて、
今まさに乗っかろうとしている男性に言う。

もはや、恥ずかしさはピークで
自分で何を言ってるのか
あまり、よくわからない。
ただ

不思議なくらい、気持ちちは安定していた。
「ちゃんと『クスリ』が効いているね。
は〜♡ 待ちわびたよ、この瞬間を♡」
そう言われ、今日、この場を訪れて
すぐに飲まされた錠剤のことを思い出す。

なんのどんななクスリなのか、
まったくわからない。なのに、
今は、ぜんぜん怖くない。

むしろ、なんだか、身体がフワフワして
はやく、自分の身体で遊んでもらいたい。
これから、の事を考えると
ワクワクすらしでしまっ、祈だった。



「は、はずかしいです。
先生……、は、はやく……」
太股を開くこの姿勢は
普通に恥ずかしい。だが、

自分がもつと恥ずかしい行為を
せがんでいる事には、頭がまわらない。
「ほっほ……♡はいはい、では
フィギュア少女のホカホカ処女マン♡
いっただっきまあす♡」



「ツツ♡♡♡ んあッ

あ、あッ、あああああッツ♡♡」

太い肉茎が幼くも狭い腔道を

押し広げながら入ってくる♡

ミチミチミチ……ツと

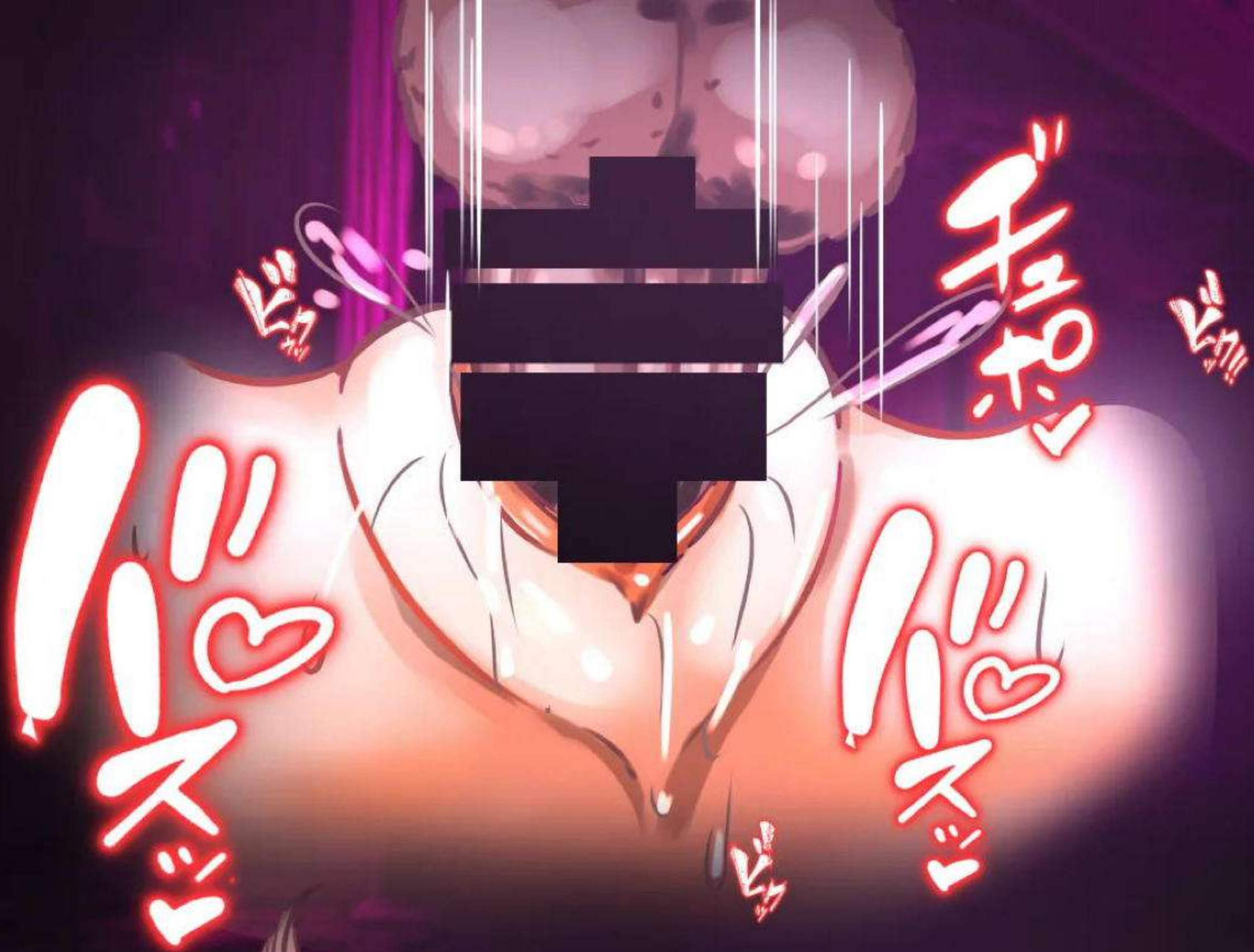
肉をかき分ける音がかすかに響いた。

「お、おお、これ……っ♡

鍛えてる子は、締まりが違う……っ

はああ、たまらん……ッ」

『先生』が気持ちよふふっふと叫ぶ。



「んいッ♡いううっ♡
は、はっ♡はあっ♡はああっ♡」
ズリズリと太く長い肉槍に
身体の中心が開かれていく感覚。

しかし、まるで痛くはない。
柔らかくほぐされた肉体は
男の怒張をまるまる飲み込み、
奥へと向かう肉棒を歓迎すらする。

「あゝ♡ぷりぷりのマン肉に
みっちり包まれる感覚……っ♡
チンポが気持ちよさでビリつくわい」

肉棒がさほど深くもない
祈の腔の、奥へ奥へと進んでいく。
そのたびに

「おっ♡おおお♡ほおおっ♡
んおツ♡ふ、ふかい……っ♡
おくに……いいいつ♡♡」

祈は獣じみた喘ぎ声をあげ、
熱い吐息をもらす♡

そしていよいよ



——ずんっ♡

「おおっ??♡ お、おおっ♡♡」

最奥部にある、女性の最も大事な器官
子宮にまで、男の生殖器は到達した♡
そして、そのまま
グリグリグリグリ……と
太く丸い亀頭で、ポルチオを擦られる。

「お?♡ おっ♡おおっ♡
なにこれ、なにこれ♡なに、これえへえ♡♡」

絶対に指では触れられない
自分の秘密の部分
他人の好き放題にされる感覚♡
祈はただただ、驚き、あえぐ♡

パ
ン
ッ♡
ハ
ハ♡

「コリコリ♡ゴリゴリらめっ♡
しょこっ♡しょこらめれすっ♡
せんせい♡せんせ、イジメらいでっ♡」
最奥部をペニスでこねられ、
祈は息も絶え絶えに、身体をよじらせた。

ハ
ハ♡
ハ♡

「あゝ、子どもの高体温まんこ♡
ちんぽしごきには最適なオナホよな♡
ほれ、ほれっ♡もっ♡とメス声あげて
チンポをよろこばせんかッ♡♡」

んお♡おほっ♡ほ、ほおおっ♡
ふといっ♡ふといのっ♡
これ、これ、おかしい♡おかしいっ♡
「なあにがおかしいんだ？
ほれっほれっ♡」

「これッ♡こんなのっ♡
こんな、太いのッ♡で♡
されてるのにつ♡
されてる、のにいッ♡♡」

「きもちいい♡きもちいいですッ♡
お、おとこの人にされるのっ♡
ズンズンされるのっ♡
すごい、いい………れすうッ♡♡」

好き者め♡というか、
オナニーも、もっとし

し、してましたっ♡ホントはもっと♡

もっとしてたのっ♡が、学校やすんでツ♡

ずっとおふんの中で…ツ♡

グチュグチュグチュ〜ツツ…って♡♡」

A stylized graphic featuring the word "Love" in a red, outlined font. The letter "o" is replaced by a heart symbol. The background is a soft, light pink gradient.

「えらい、えらいぞお♡それでいいんだ。
メス子どもは、ちゃんとまんこ遊びして
大人さまへのセックス準備をするのが仕事なんだ」

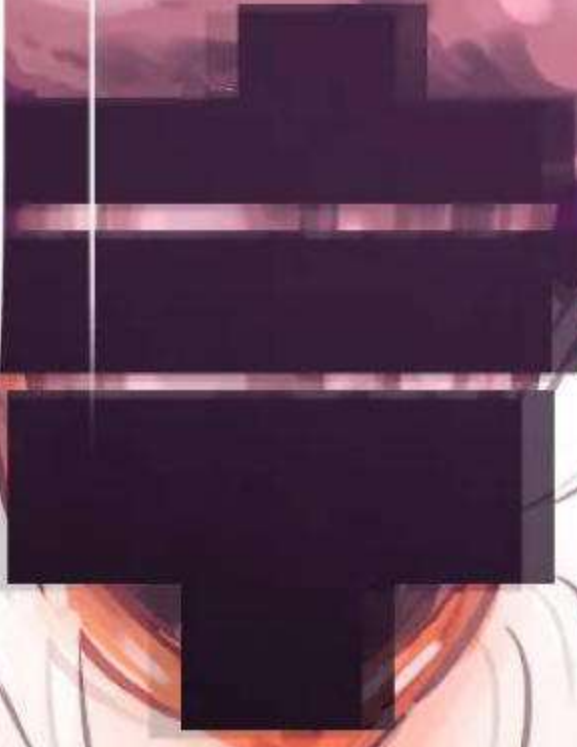
ズン♡

は♡

は♡

チュ♡

バ♡
チュ♡



ズン♡
ズン♡

「んあッ♡ははやいつ♡はやい♡
それ、はや……ツんぎぎ……イ♡い♡
おおく、ドチュドチュ♡
は、はやいれしゅ……ツ♡ツ♡」

「ほら、もっとちゃんと交尾するぞ♡
支えてあげるから、マンコをオスに
突き出しなさい♡挿げるんだ♡」

くちゅ♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

くちゅ♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

くちゅ♡♡♡

「ははいっ♡はい♡

っ、突き出して、ささげます♡

その、あの、ま—」

「まんこだ、まんこっ♡」

「おっ♡おっ♡おっ♡」

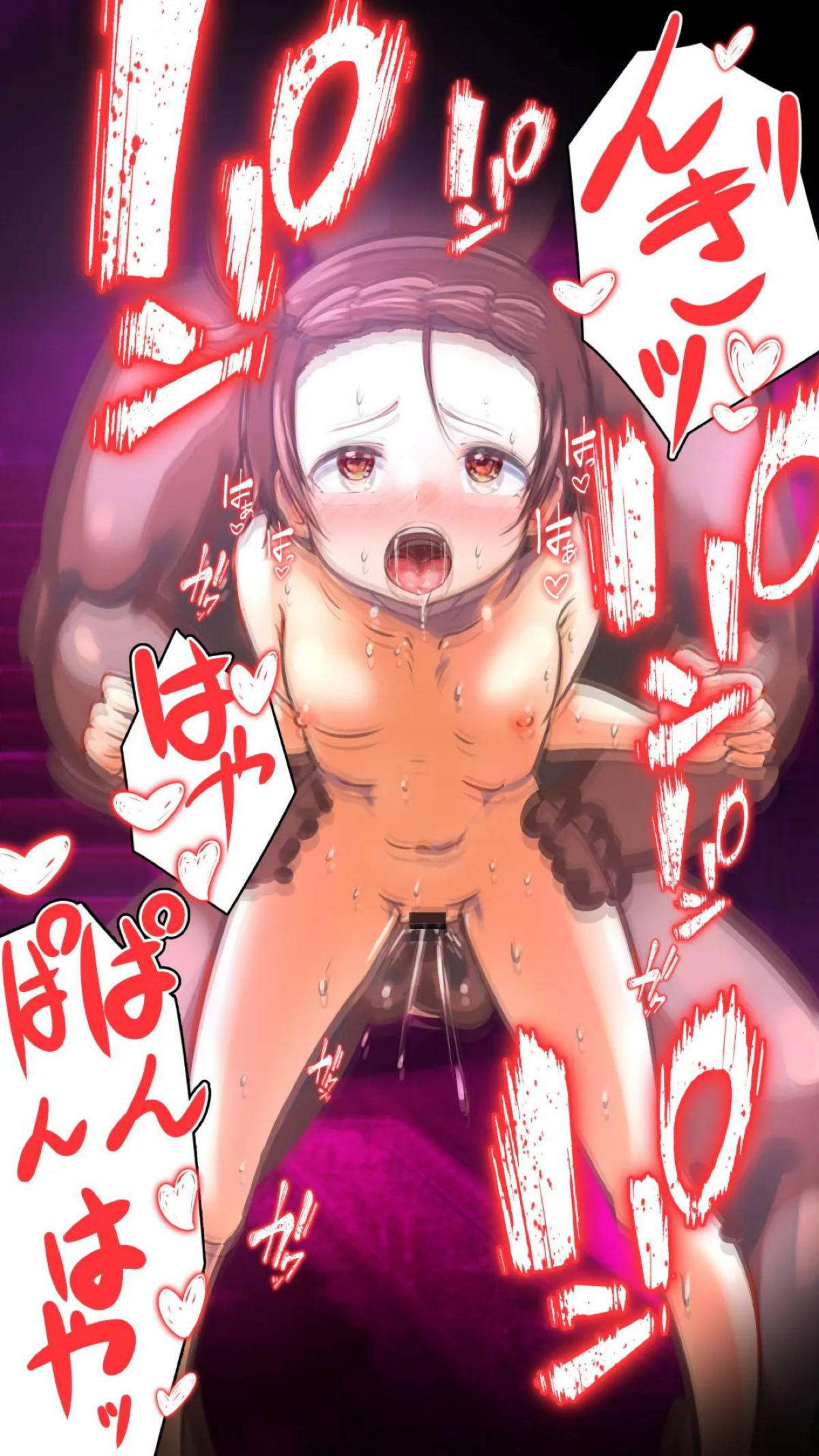
「んおツ♡お、おツ♡
ま、まんこっ♡まんこお♡」
「そして、オスのこれは、
ちんぽだ。言ってみなさい」

「ちん……♡ち、んぽ……♡
ちんぽ♡ちんぽっ♡」
「ちんぽ気持ちいいね？
ほれ、どうだね？ ちんぽはどうかね？」

「あぐツ♡お、おっほ♡♡
いいイイ♡いいですっ♡
ちんぽ♡ちんぽでまんこっ♡
まんこされるの、きもちいいれすう♡♡」

「うんうん♡子どもは素直が一番だ。
このままチンポでまんこを
イかせてやるからね」
「あ、ありがとう♡♡うう、うう、うう♡♡♡」

ズッ♡





あーあーあー

あーあーあー

あー

ん
あー

あー?

あー
あー

うわー
うわー

うわー
うわー



「は……出した出した……♡
祈ちゃん、なかなかイイまんこだったよ♡
「はへえ……へあ……お、おお……♡♡」

「こら、ちゃんとせんか。
次は射精後のちんぽ掃除を
仕込んでやる。返事は？」
「は、はあい……♡
ありがと、ごじやいましゅ……♡♡」



The background features several faint, sketchy line drawings of anime-style characters. In the top left, a character with short, spiky hair and a wide-eyed, excited expression is shown from the chest up, wearing a dark jacket with a small cat-like emblem. In the top right, a character with long, flowing hair is depicted in a dynamic, possibly dancing or falling, pose. In the bottom left, a character with long hair is shown in profile, looking down with a slight smile. In the bottom right, a character with short hair and a confident, slightly smug expression is shown from the waist up, wearing a dark, form-fitting outfit with a ruffled skirt.

NextStage 『2nd Spin』

2025/05

『教室経営を助けるための『かんたんなお仕事』1st.SPIN』

当作品の無断複製・無断アップロード・無断配布
また、画像の改変や使用等は禁止しております